

簿記教室進行表

第 1 回 はじめに・簿記の意義と仕組み・仕訳と転記・仕訳帳と元帳・決算

第 2 回 現金と預金・仕入・売上・繰越商品

第 3 回 売掛金と買掛金・その他の債権債務・受取手形と支払手形

第 4 回 固定資産・貸倒損失と貸倒引当金・資本

第 5 回 収益と費用・税金・伝票

第 6 回 財務諸表

第 7 回 総合問題演習（1）

第 8 回 総合問題演習（2）

はじめに

簿記の意義と仕組み

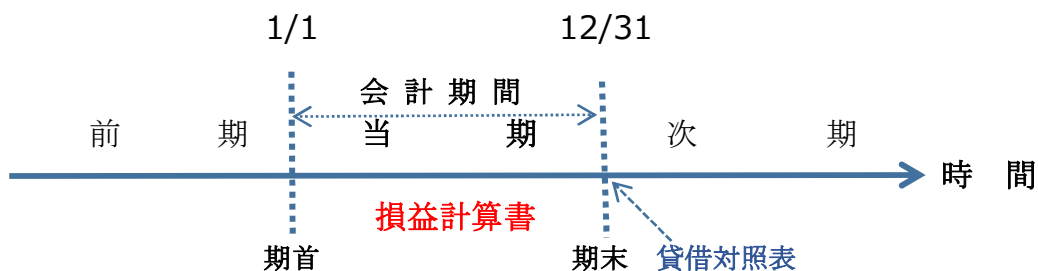
簿記とは、帳簿に記入することです。

帳簿の記入から、一時点の企業の財産状態を表す**貸借対照表**と、一定期間の損益（もうけと経費）を表す**損益計算書**を作成します。

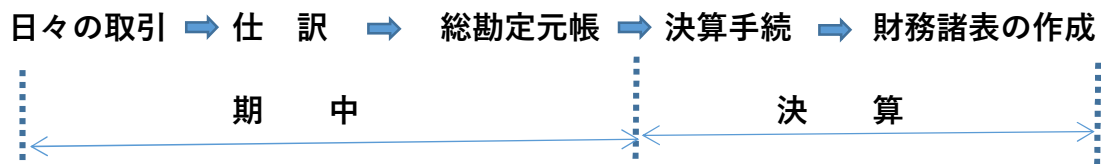
貸借対照表と損益計算書を**財務諸表**と呼びます。財務諸表は、企業の経営判断・取引先への情報提供・税務署への申告等に使用されます。

会計期間

会計期間とは、企業が定めた計算・整理するための一定の期間のことです。



簿記の手続き



貸借対照表・損益計算書

貸借対照表

(株)徳島商店

2025 年 3 月 31 日

資 産	金 額	負債および資本	金 額
現 金	60,000	買 掛 金	30,000
普 通 預 金	30,000	借 入 金	60,000
売 掛 金	50,000	資 本 金	100,000
備 品	70,000	繰越利益剰余金	30,000
貸 付 金	10,000		
	220,000		220,000

2025 年 3 月 31 日時点の(株)徳島商店の貸借対照表です。

左側（借方）に資産の科目と金額が、右側（貸方）に負債と資本の科目（資本金と繰越利益剰余金）と金額（残高）が表示されています。

資 産

2025 年 3 月 31 日時点の(株)徳島商店には、**資産**として、金庫の中に**現金**が 60,000 円・銀行に**普通預金**が 30,000 円・**売掛金**（代金後日受取の売上代金）が 50,000 円・**備品**（事務用の机・ロッカー・椅子等）が 70,000 円・**貸付金**（他人に貸して返してもらえるお金）が 10,000 円あります。合計 220,000 円です。資産は現在および将来企業にプラスとなる財物とか、債権のことです。

負 債

貸借対照表の右側（貸方）の買掛金（代金後日支払いの仕入代金）と借入金が**負債**です。買掛金が 30,000 円・借入金（他人から借金）が 60,000 円あります。合計 90,000 円です。負債は、将来返さなければならない債務ですから、企業にマイナスとなるものです。

資 本

貸借対照表の右側（貸方）の資本金と繰越利益剰余金が**資本**です。合計 130,000 円です。資産の合計（220,000）－負債の合計（90,000）＝資本の合計（130,000）・・・**資本等式**

資本金

株式会社の資本金勘定は、株式会社設立時に**株式を発行**し、株主になる者から金銭等の財産を払んでもらったときに処理する場合と、株式会社設立後増資のため**株式を発行**するときに処理する場合があります。

繰越利益剰余金

繰越利益剰余金は、資本金とは区別された、企業の経済活動から獲得された当期純利益の合計額のことです。（詳しくは、第4回で学習します）

損益計算書

(株)徳島商店 2024年4月1日から2025年3月31日まで

費用	金額	収益	金額
仕入	136,000	売上	220,000
給料	30,000	受取手数料	5,000
広告宣伝費	10,000	受取利息	2,000
旅費交通費	8,000		
消耗品費	9,000		
支払利息	3,000		
雑費	1,000		
当期純利益	30,000		
	227,000		227,000

2024年4月1日から2025年3月31日までの(株)徳島商店の損益計算書です。

左側（借方）に**費用**の科目と金額（累計額）が、記載されています。

仕入：商品を仕入れたときの仕入価格（原価）
 給料：従業員や役員に支払った報酬
 広告宣伝費：新聞・雑誌の広告・インターネットでの宣伝費用
 旅費交通費：は、電車やバスタクシー等
 消耗品費：帳簿・伝票・文具等
 支払利息：借入金に対して支払った利息
 雑費：お茶菓子・新聞購読料

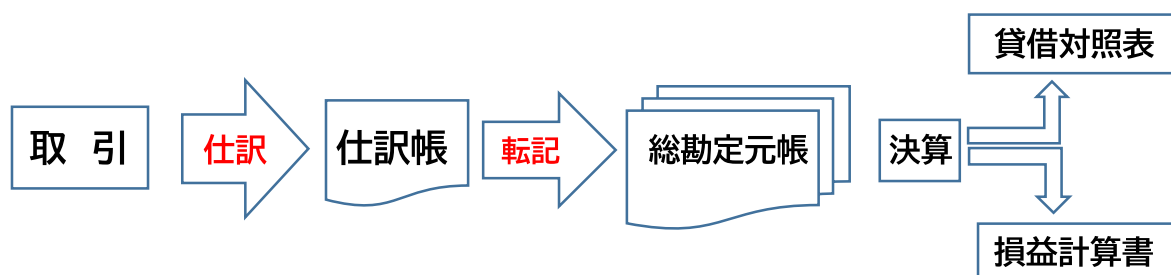
右側（貸方）に**収益**の科目と金額（累計額）が、記載されています。

売上：商品を売り上げたときの売価
 受取手数料：商品を売り上げたときの売価
 受取利息：預金や貸付金の利息

損益計算書は、一定期間における企業の経営成績を表しています。

収益－費用＝当期純利益（マイナスのときは当期純損失）

仕訳と転記



取引とは、貸借対照表と損益計算書の資産・負債・資本・収益・費用の各科目の金額に変動もたらす事柄です。

仕訳とは、日々行われる取引をその都度、該当する資産・負債・資本・収益・費用の科目と金額を仕訳帳の左（借方）と右（貸方）に記録することです。仕訳帳は、ワークブック解答編 8 ページに記載例があります。仕訳は簿記においては、非常に大切です。繰り返し学習してください。

転記とは、仕訳帳から総勘定元帳の各勘定科目へ記入することです。転記はワークブック解答欄 9 ページ記載例があります。

決 算

決算とは財務諸表を作成することです。

決算手続

*試算表の作成

総勘定元帳の全科目の合計と残高を借方と貸方に集計し、貸借の金額が一致することを確認します。貸借の金額が一致しない場合は仕訳の間違えか、転記の間違えが考えられます。

*決算整理（本教室の進行表第 2 回目以降は決算整理に関してがほとんどです。）

現金過不足・仮払金・借受金・売上原価の計算・貸倒引当金・固定資産の減価償却・未収収益・未払い費用・前受収益・前払費用・貯蔵品の処理・法人税、住民税および事業税の計上・未払い消費税の計上

*元帳の締切と仕訳帳の締切

元帳の締切のワークブック解答編 12 ページ・13 ページをご覧ください。

貸借対照表科目と損益計算書科目で締切方法が異なります。

損益計算書科目は、残高を損益勘定に振替えてから、合計線（1 本線）を引き、金額を記入し締切線（2 本線）を引き締切ります。

貸借対照表科目は、貸借の差額を合計額の少ない方に次期繰越としてを記入し、締切ます。
そして次期の開始日と繰越金額を記入します（開始記入）。